

腐食防食学会 中国・四国支部 25周年記念、誠におめでとうございます。一言祝辞を申し上げます。

私が中国・四国支部とかかわりができたのは、1999年7月1日付けで広島大学大学院工学研究科教授、ベンチャービジネスラボラトリー(VBL)の施設主任に奉職した年でした。住友金属工業(株)(現新日鉄住金(株))総合技術研究所を前年の年末に定年退職して、翌年腐食防食コンサルタントの事務所を開いてまもなくでした。広島大学の定年まで約3年でしたが、この期間は私の人生にとっては珠玉の1ページといっても過言ではありません。広島には腐食防食関連で知己も多く、暖かく迎え入れて頂き、教育・研究および学会活動を満喫しました。

1999年12月8日、広島弥生会館で行われた中国・四国支部の材料と環境研究発表会に初めて出席し、当時の広澤支部長(株)トクヤマ)に歓迎の言葉をかけていただきました。2000年3月9日、中国・四国支部の研究発表会において、「材料開発と国際協力」の題目で講演する機会を得ました。確か、さびの研究における国際交流の経験をお話したように思います。

広島で最も印象に残っているのは、広島大学工学部が主催し、腐食防食協会が後援したESCCD 2001(Environment Sensitive Cracking Damage、2001年10月29日～11月2日)に関与できたことでした。この国際会議の実行委員長は中国・四国支部長で広島大学の松村先生、副実行委員長は中佐先生と私、代表幹事は磯本先生が担当し、内外から約60余名の出席をみました。中国・四国支部の熊田先生、江原先生、矢吹先生、三菱重工業(株)の山田氏、バブコック日立(株)の山内氏の協力を仰いで、会議はリラックスした雰囲気に進んだ印象を持っています。バンケットの司会をたまたま担当し、広島郷土民芸の大蛇踊りが喝采を得ました(写真1)。写真2は談笑の様子です。

その後、2002年3月末に広島大学を定年退職し現在に至るまで、広島大学で立ち上げたベンチャー、(株)材料・環境研究所を神戸市に設置して、腐食防食のコンサルティング業務を続けています。現在、中国・四国支部の顧問をさせていただいているお陰で、幹事会と材料と環境研究発表会には出来るだけ出席するようにしています。そのプレゼンテーションは現場の腐食事例に即したものが多く、また、若手の発表も盛んで、大変活気があり、私にも役立っています。広島工業大学の王先生との共同研究成果、たとえば、2014年に「微量 Na_2HPO_4 を添加した凍結防止剤による軟鋼の腐食挙動」を発表しました。また、広島大学在職中に大変お世話になった松村先生と共著で「さびの基本と仕組み(株)秀和システム、第二版)を昨年末に出版する機会を得ました。やさしい腐食の啓蒙書のつもりで書いています。

今後とも中国・四国支部には大変お世話になります。支部の益々のご発展を祈念申し上げます。



写真1 バンケットの様子，郷土民芸大蛇の意匠。



写真2 バンケット時の写真，左より長野，中佐先生，ミネソタ大学 R. W. Staehle 教授